

日本医療福祉政策学会 2023 年度（第 7 回）研究大会

大会テーマ「災害と医療福祉－歴史と現状、課題」

1. 開催概要

- ・日時：2023 年 11 月 18 日（土）
- ・開催校：明治大学駿河台キャンパス ※オンライン配信は検討中
- ・日程：（※時間変更する場合があります）
 - 10：00～12：00 一般演題
 - 12：00～13：00 昼食休憩（幹事会）
 - 13：00～13：40 総会
 - 13：45～16：45 研究大会シンポジウム

2. 研究大会シンポジウム「災害と医療福祉－歴史と現状、課題」

（趣旨）

2020 年から世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、各国が抱えるさまざまな課題を浮き彫りにしました。日本においても、現場を担う医療福祉の従事者の献身的な努力と多くの人々の自発的な協力に支えられながらも、10 万人を超える死者を出し、いまだ周期的な感染の波に見舞われています。そうしたなか、感染症に備えるための行政機構や情報インフラが脆弱であるとして、医療提供体制のあり方を見直し、全国医療情報プラットフォームの構築をはじめとする医療 DX の推進が、政策的に進められています。

歴史を振り返ると、日本は 1918 年から 1920 年にかけて猛威を振るったスペイン風邪（インフルエンザ）により、39 万人から 45 万人が亡くなったといわれています。また、ちょうど 100 年前の 1923 年には関東大震災が発生し、10 万人を超える死者・行方不明者を出しました。1910 年代末から 20 年代初頭の相次ぐ大規模な災害が、大正デモクラシーから昭和の戦時体制へと向かう、ひとつの転機をなしたように思います。

そこで、研究大会では、災害の地域経済学・政治経済学に関して造詣の深い岡田知弘氏をお招きして、災害と日本社会のあり様について歴史的な視点も交えた基調講演をしていただくとともに、被災地における居住・生活支援問題で研究と実践の両面で活躍されている井口克郎氏、東日本大震災の被災地でもある東北地方の医療改革動向に詳しく、またコロナ禍における医療・公衆衛生のあり方についても研究されている村口至氏を交えて、パネルディスカッションを行いたいと思います。

(報告者・コーディネーター)

基調講演：岡田知弘氏（京都橘大学、京都大学名誉教授）

報告 1：井口克郎氏（神戸大学）

報告 2：村口至氏（坂総合病院名誉院長、東北地方医療福祉総合研究所理事長）

コーディネーター：高山一夫氏（京都橘大学）

(参加フォーム)

- ・研究大会に参加を希望される方は、下記の URL より参加登録フォームにご入力をお願いします。登録は、11月12日までをお願いいたします。

<https://forms.office.com/r/8wHZfV6Z5j>

3. 一般演題の募集について

- ・研究大会では、一般演題を募集しています。一般演題の発表は、会員の方であればなたでも可能です。院生の方からのご報告も歓迎いたします。
- ・応募される方は、下記の一般演題エントリーフォームより必要事項をご登録ください。登録期限は、2023年10月1日です。

<https://forms.office.com/r/vPHcWehdHj>

- ・2023年度（第7回）研究大会に関するお問い合わせ先

京都橘大学経済学部 高山 一夫

takayama@tachibana-u.ac.jp （<@>を半角に直してください）